

---

# メンテナンスガイド補足

---

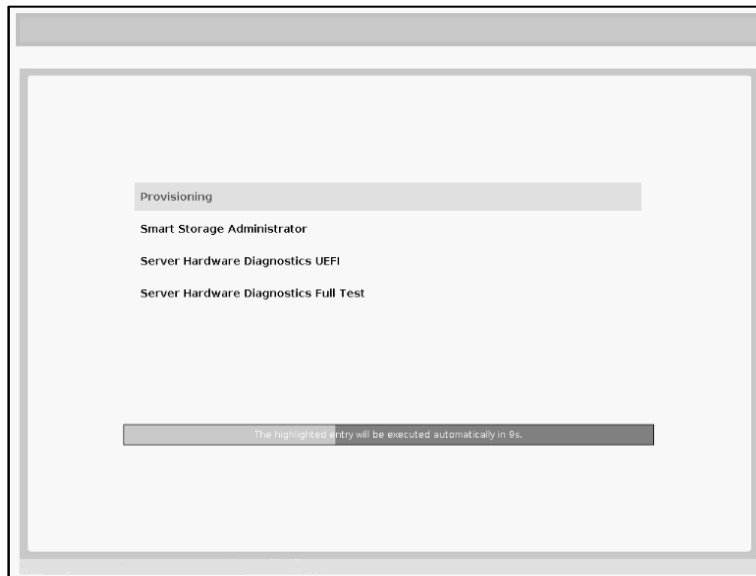
---

## 1. EXPRESSBUILDER の起動

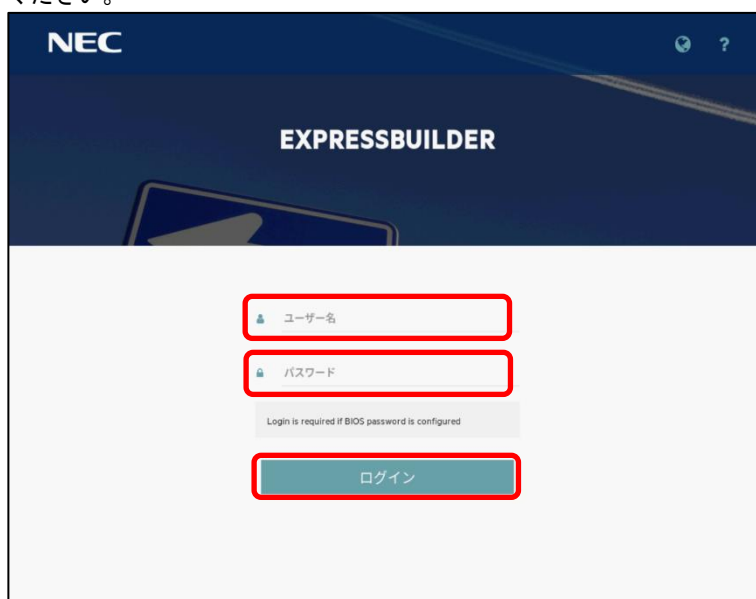
---

1. 本機の電源をオンにするか、または<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押して再起動させます。
2. POST 画面で<F10>キーを押します。

以下のメニューが表示されます。

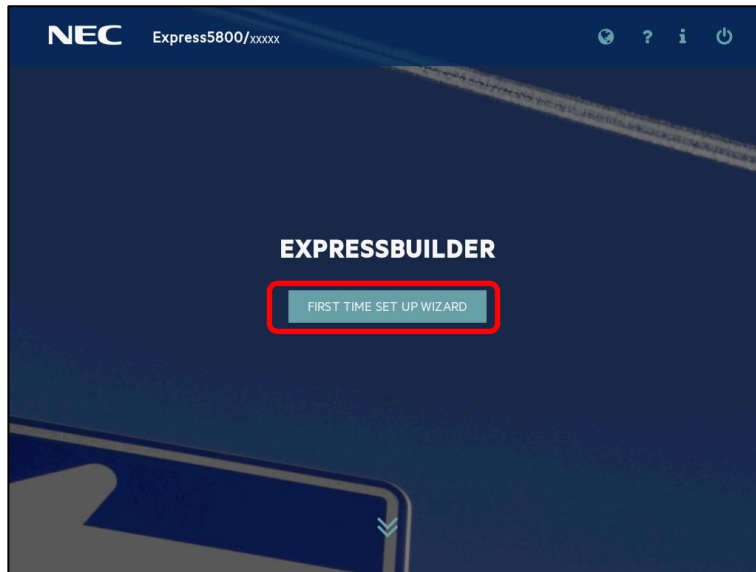


3. メニューから「Provisioning」を選択します。
4. RBSU で管理者パスワードを設定すると、以下のようにユーザー名/パスワードの入力画面が表示されます。この場合、画面上で iLO のユーザー名/パスワードを入力し、「ログイン」をクリックしてください。

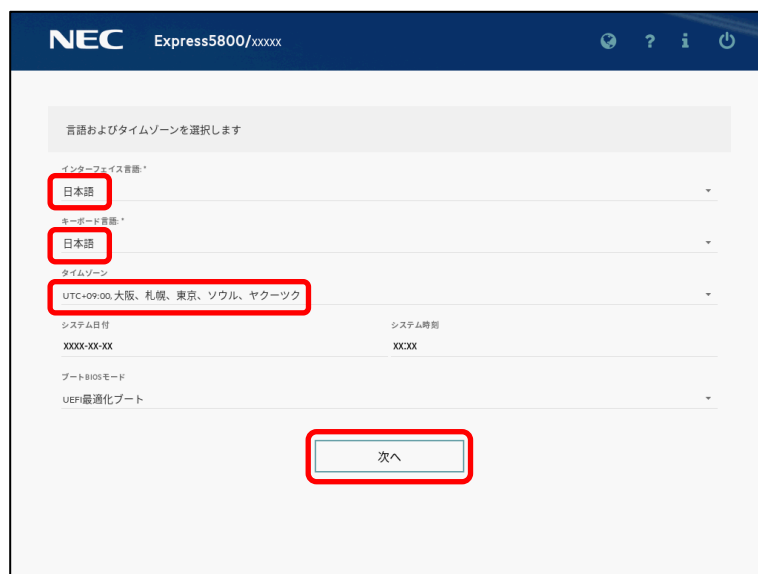


5. 「メンテナンスの実行」から環境クリア後、または初回起動時は、EXPRESSBUILDER の動作環境を設定します。

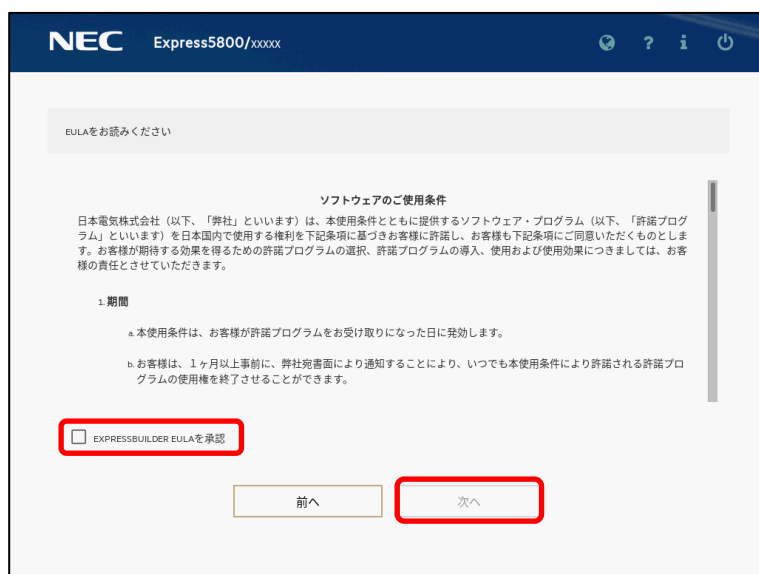
(1) 以下の画面で、「FIRST TIME SET UP WIZARD」をクリックします。



- (2) 以下の画面では、「インターフェイス言語」(デフォルトの英語表記時は「Interface Language」)を日本語に変更して日本語表記にします。さらに、「キーボード言語」を日本語に変更し、「タイムゾーン」を「UTC+09:00、大阪～」に設定して次へ進みます。その他の設定は変更しません。なお、「タイムゾーン」がグレイアウトして変更不可のときは、そのままの設定で次へ進みます。



- (3) 以下の画面では、エンドユーザーライセンス(EULA)を読み、チェックボックスをチェックした後、次へ進みます。



NEC Express5800/XXXXX

EULAをお読みください

ソフトウェアのご使用条件

日本電気株式会社（以下、「弊社」といいます）は、本使用条件とともに提供するソフトウェア・プログラム（以下、「許諾プログラム」といいます）を日本国内で使用する権利を下記条項に基づきお客様に許諾し、お客様も下記条項にご同意いただくものとします。お客様が期待する効果を得るための許諾プログラムの選択、許諾プログラムの導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

1. 期間

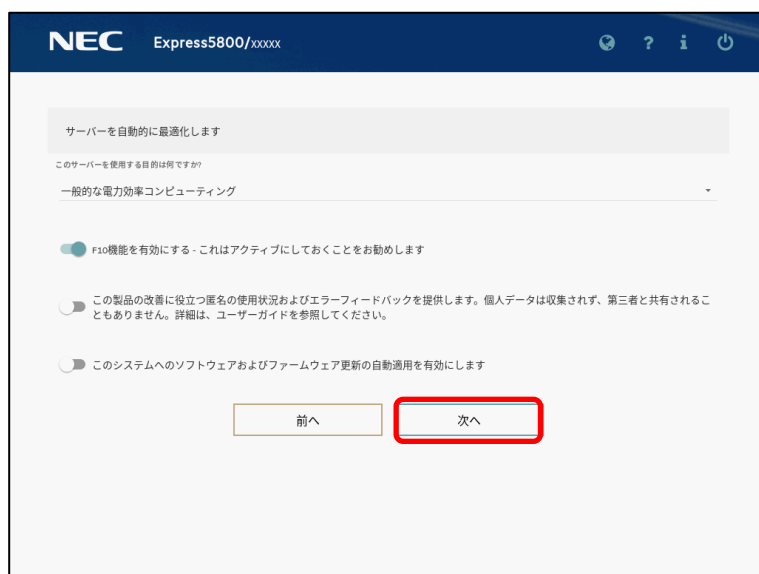
a. 本使用条件は、お客様が許諾プログラムをお受け取りになった日に発効します。

b. お客様は、1ヶ月以上事前に、弊社宛書面により通知することにより、いつでも本使用条件により許諾される許諾プログラムの使用権を終了させることができます。

☒ EXPRESSBUILDER EULAを承認

前へ 次へ

- (4) 以下の画面では、設定を変更せずに次へ進みます。



NEC Express5800/XXXXX

サーバーを自動的に最適化します

このサーバーを使用する目的は何ですか？

一般的な電力効率コンピューティング

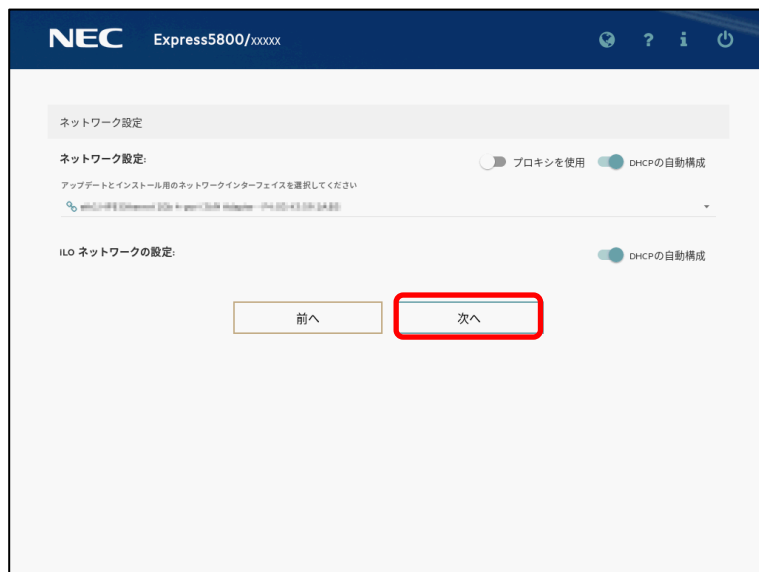
☒ F10機能を有効にする - これはアクティブにしておくことをお勧めします

☐ この製品の改修に役立つ匿名の使用状況およびエラーフィードバックを提供します。個人データは収集されず、第三者と共有されることはありません。詳細は、ユーザーガイドを参照してください。

☐ このシステムへのソフトウェアおよびファームウェア更新の自動適用を有効にします

前へ 次へ

(5) 以下の画面では、設定を変更せずに次へ進みます。



NEC Express5800/xxxxx

ネットワーク設定

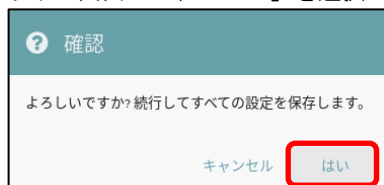
ネットワーク設定: ☐ プロキシを使用 ☒ DHCPの自動構成

アップデートとインストール用のネットワークインターフェイスを選択してください

ILO ネットワークの設定: ☒ DHCPの自動構成

前へ 次へ

(6) 以下の画面では、「はい」を選択して設定を保存してください。

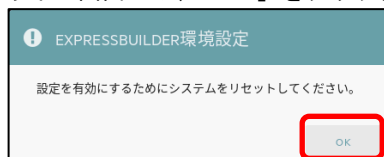


? 確認

よろしいですか? 続行してすべての設定を保存します。

キャンセル はい

(7) 以下の画面では、「OK」をクリックして再起動させてください。



! EXPRESSBUILDER環境設定

設定を有効にするためにシステムをリセットしてください。

OK

---

## 2. EXPRESSBUILDER のメニュー

---

EXPRESSBUILDER は、画面上のメニューから操作します。



a) OS インストール

OS のインストールを実施します。詳細は、「インストレーションガイド(Windows 編)」を参照してください。

本機能を使うと、自動/手動オプションともに、インストール先ディスクのパーティションをクリアし、全データを削除してからセットアップを進めます。

b) メンテナンスの実行

以下の保守用のツール等を個別に起動します。

(1) EXPRESSBUILDER 環境設定

「1 EXPRESSBUILDER の起動」の手順 5 で設定した環境を再設定できます。

(2) Active Health System ログ

外部メディア等へ、故障時の解析などで使用する AHS ログを保存できます。

(3) 展開設定

サーバーのインストール設定を多数台へ展開することができます。

(4) BIOS/プラットフォーム構成

BIOS の設定ができます。

(5) iLO 構成

iLO の設定ができます。

(6) システムの消去およびリセット

環境設定の消去、およびハードディスクドライブの消去ができます。

「すべてのハードディスクドライブ」を選択すると、外付けを含め、サーバーに接続しているすべてのディスクの内容を消去します。また、「ハードドライブのワイプ」を選択すると、すべてのディスクに対し、全セクタにランダムパターンを数回上書きしてデータを完全に消去します。



本機能を使用してディスクを消去した場合、ディスクに記録されたデータは復旧できません。また、「ハードドライブのワイプ」を実行すると、接続したディスクの容量によっては、終了まで数日かかる場合があります。

#### (7) RAID の構成

RAID の構築、設定を GUI で実施できる Smart Storage Administrator (SSA)を起動します。